

■集合廊下灯

条件

1 台数

1系統あたりの台数は最大**20台**までです。(子機は40台までです。)

(1系統あたりの一斉放送を行う子機と天井スピーカーの設置台数算出について)

計算方法 一斉放送を行う子機台数 + (一斉放送を行う天井スピーカー台数 × 2) ≤ **40台** 以下

(例) 1系統あたり子機15台、天井スピーカー10台を設置する場合  
15台 + (天井スピーカー10台 × 2) = 35台 ≤ 40台

※生体情報モニタと接続している場合は総台数が、集合廊下灯119台、子機 239台までです。

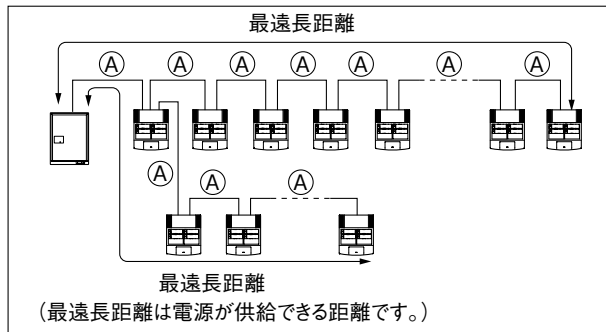
条件

2 到達距離

最遠長距離は最長**200m**まで

総配線距離は**1000m**まで

| 範囲         | 到達距離        |
|------------|-------------|
| 総配線距離(A)合計 | 1系統あたり1000m |
| 最遠長距離      | 200m        |

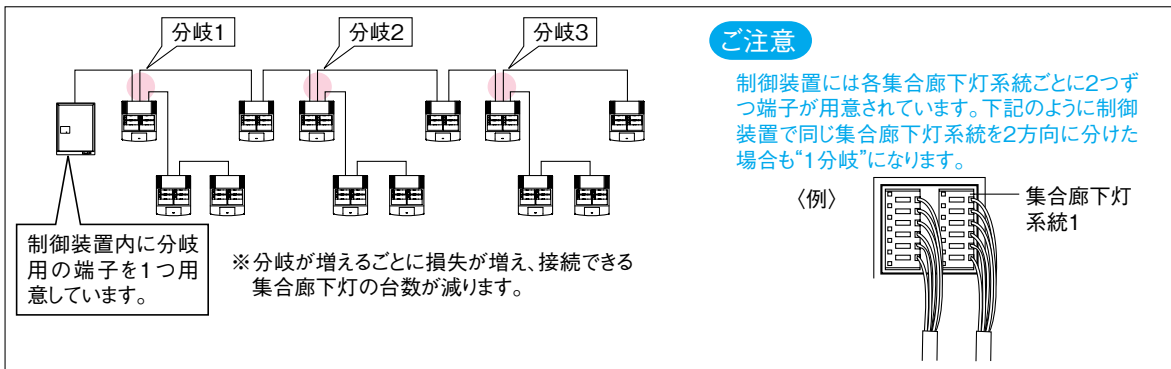


条件

3 分岐数

1系統あたりの分岐数は3分岐以内としてください。

分岐箇所から末端集合廊下灯の間が4m以上の場合“1分岐”になります。



ご注意

制御装置には各集合廊下灯系統ごとに2つつ端子が用意されています。下記のように制御装置で同じ集合廊下灯系統を2方向に分けた場合も“1分岐”になります。

更に下記の計算式で出力損失を確認してください。

下記のように出力損失が37dBを超えないことを確認してください。

$$\begin{aligned}
 & \text{線路損失} \quad \text{集合廊下灯損失} \quad \text{分岐損失} \\
 & \boxed{\text{最遠長距離} \times 0.065\text{dB}} + \boxed{\text{台数} \times 1.0\text{dB}} + \boxed{\text{分岐数} \times 4.0\text{dB}} < 37\text{dB} \\
 & \quad (200\text{m以下}) \quad \text{1mあたり} \quad (20\text{台以下}) \quad \text{1台あたり} \quad \text{1分岐} \quad \text{あたり} \quad \text{出力損失}
 \end{aligned}$$

